

平成 29 年度 埼葛北地区地域自立支援協議会 部会実施報告

【生活支援部会】

- 「医療的ケアの必要な児童の支援」をテーマとした。ネットワークづくりの第一歩として、特別支援学校、サービス提供事業所、訪問看護事業所に参加してもらい、事例の検討・課題の共有を行った。
- 成長に伴い、医療→教育→福祉と身近な相談先が変わっていく。たくさんの機関が支援に関わる場合が多く、情報を掌握する人が必要。また、医療との連携でも、医療以外の情報を持って相談をすることが必要となり、全体を見渡す役割として相談支援センターへの期待が高まっている。
- 医療型短期入所の資源不足、通院や施設利用の際の移動の手段、入浴の支援について課題がある。制度が医療的ケアの必要な児童の支援を想定していないケースもあり、実態に合わせた制度の見直しが必要と思われる。
- 家族の入所希望に至るまでに在宅サービスの丁寧なフォローが必要。児童の入所の支給決定は児童相談所が行うが、入所時に先を見据えた検討を行い、行政・支援センター・施設は在宅支援を常に考え情報提供し、家族と共有することが必要となる。

【ケアマネジメント部会】

- 今年度は参加者を行政・委託相談支援事業所に絞り、各委託相談支援事業所で支援している困難ケースについて共有し、その中から見える共通のニーズ・課題等を抽出した。
- 特に共通した見られた課題は、「金銭管理が上手に行えない」、「本人・家族の支援拒否」、「受入れ先（入所施設・グループホーム）の不足」、「介護保険分野との連携」等であった。
- 本人との関わり方や既存のサービスの活用方法、今後求められる社会資源についても行政・相談支援事業所にて共通認識を持つ機会となった。
- これまで抽出された課題について、来年度以降の新たな部会構成の中で更に理解を深めたり、解決に向けた検討をして行く事が必要と思われる。

【地域移行・地域定着支援部会】

- 地域移行・地域定着支援を進めていくために、病院や委託相談支援事業所が関わっているケースを中心に、事例検討や実践報告を行った。事例を通じて、地域相談の活用や連携の在り方について理解を深めることができた。
- 地域移行支援を進める為に、すでに地域相談を実施している事業所と未実施の事業所が協働して事例に取り組むことで実績を重ねる努力をした。
- 来年度から始まる自立生活援助事業の講義・意見交換を行うことで、前もって事業のイメージ作りを行うことができた。今後は実際に活用をしながら、事業の理解や活用方法の検討を行っていききたい。
- 委託ケースについて行政へ報告するとともに、事例を通して見えてきた課題（子どもを持つケースへの支援や高齢の親と同居するケースへの介入、支援拒否があるケースへの関わり方、関係機関との連携など）を確認し、行政と委託相談支援事業所でアイディアを出しながら協議することができた。これらの課題は他部会でも共通の課題としてあげられていた。
よりよい支援を行う為に地域の支援者が集まり様々な視点で意見を出し合う事例検討会の場が課題別部会以外の場所でも展開される体制整備が必要である。

【就労支援部会】

- 埼玉葛北地区の就業・生活支援センター（以下、ナカポツセンター）と就労支援センターが定期的に集まり、就労支援部会の内容について検討し、障害者雇用に関する現状や課題等について情報交換を行った。
- 部会の内容は、地域の障害者雇用の現状や課題からテーマを設け、①「特別支援学校と関係機関の連携について」特別支援学校からの報告と意見交換会、②「障害者の就労 医療機関の視点から」精神科医 青木五省氏による講義、③「精神・発達障害の理解を深める ～障害者雇用に向けて～」障害者雇用サポートセンターからの講義と意見交換会、④「ハローワークにおける障害者の就労支援について」ハローワーク春日部による報告、「ナカポツセンターと就労支援センターの事業報告」という内容で開催し、地域の現状や課題を参加者で共有した。
- 今後も各地域の状況に合わせた就労支援の仕組み作りを考えていきたい。